



JA愛媛たいき 自己創発工程表

(平成28~32年度)

～農業者の所得増大と地域の活性化に向けた改革への挑戦～

重点実施事項

- 管内農業の振興に向けた担い手の育成・支援
- 営農・経済部門の体制強化
- マーケットインに基づく生産振興・販売事業改革
- 付加価値の増大
- 生産資材事業におけるトータルコスト低減
- JAによるくらしの活動支援

※マーケットインとは市場や購買者という買い手の立場に立って買い手が必要とするものを提供すること。



将来像

- ・継続可能な農業の実現
- ・豊かなくらしのための農業所得の確保
- ・地域の活性化と次世代組合員を中心とした豊かな地域社会の実現

食べ物と命の絆で 幸せ満タンJA!!



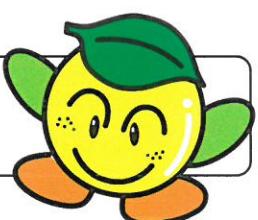
将来像を実現するために

- ・地域農業の維持・発展に向け、多様な担い手の育成・支援を強化します。
- ・農業者のニーズに応えるため、営農・経済部門の体制を見直し強化します。
- ・農業者の所得増大や農業生産の維持・拡大に向け、マーケットインに基づく生産・販売戦略や資材のトータルコスト削減に取り組みます。
- ・人口減少・超高齢化社会に対応するため、地域のくらしを守るJA事業・JAくらしの活動を展開します。

5年後の事業目標

営農畜産販売高 60億円

※創発とは、組織相互の関係のなかで、足し算ではなく掛け算的に創造的な成果を生み出すこと。



自己創発工程表:平成31年3月末進捗

基本
目標

農業者の所得増大・農業生産の拡大

地域の活性化

5年間の取組み事項 (取組み実績及び目標数値の追加・変更など)

地域農業の維持・発展に向け、多様な担い手の育成・支援を強化します。

- ・担い手サポートセンター協議会と連携し担い手の育成・新規就農者支援対応に取組みます。
- ・確定申告の支援に繋がる記帳代行事業を推進し、スムーズな申告及び経営分析に活用できるようシステム利用者を拡大します。
- ・地域農業を支える多様な担い手に対し積極的に農業融資に取組みます。
- ・「万が一の重大事故」への備えとして、農作業に係る労働災害特別加入団体への加入を推進します。
- ・収入保険制度の設立に備え、制度の周知や加入要件の整備に努めます。

数値目標	H28年度	H29年度	H30年度			
	実績	実績	目標	実績	要因	計画対比
TAC 担い手訪問先数	60先	72先 73.1先/年間平均	70先	82先 77.0先/年間平均	面談記録件数を実績とした。 留守先はノーカウント。	117.1%
経営支援システム利用者数	12名	19名 126.6%	18名	22名	災害申告支援は別途実施。 収入保険関連にて増	122.2% 通算10名増
新規個人向け農業融資	27件	54件 108.0%	50件	69件	災害資金需要	138.0%
農業労災加入者数	42名	農作業 53名 指定農機22名	65名	特定作業50名 指定農機23名	未伸長、推進活動不足	112.3%

農業者のニーズに応えるため、営農・経済部門の体制を見直し強化します。

- ・営農指導員及び畜産経営指導員の資格取得者増加を図るとともに、各種アドバイザー研修会等へ積極的に参加し、職員の知識・技術の向上に努めます。
- ・篤農家への営農アドバイザーの委嘱やタブレット端末を導入した現場対応力の強化等、指導力の充実を図っています。
- ・担い手の育成や作業受託等の労働力支援による地域農業の生産基盤や産地維持を目的に、農業法人の設立を計画しています。
(農業法人の事業計画策定に着手、平成31年度本格稼働を目指した検討会・プロジェクトチームを発足しました。)

数値目標	H28年度	H29年度	H30年度			
		実績	目標	実績	要因	計画対比
農業関連資格新規取得者数	5名	7名 140.0%	5名	6名 指導4・毒劇2	毒劇物合格率向上に向けた取組が必要	120.0% 通算18名増

農業者の所得増大や農業生産の維持・拡大に向け、マーケットインに基づく生産・販売戦略や資材のトータルコスト削減に取組みます。

- ・[肥料農薬] 各部会との連携を強化し予約率の向上と特定品目の設定・銘柄集約によるコスト低減に取組みます。
- ・[肥料] 土壤診断に基づいた適正施肥の実施によりコスト低減に努めます。
- ・[養豚] 多産系母豚を推進し、子豚生産の向上・肉豚の出荷頭数の増加を進め経営効率を追求した飼育に努めます。
- ・重点市場を中心とした販売力の強化連携を図ります。
- ・市場流通を主体とした販売体制に加え、流通コストの削減を視野に入れた直販及び企画提案型販売の強化に努めます。
- ・高品質な農産物生産によりブランドを確立し、地産地消を推進、様々なチャネルから食と農に関するPRを実施します。

数値目標	H28年度	H29年度	H30年度			
		実績	目標	実績	要因	計画対比
購買品予約率	62.0%	61.7% 96.4%	66.0%	60.3% 昨対97.7%	肥料59.74% 農業60.87%	91.4%
土壤診断実施件数	158検体	229検体 44.0%	530検体	334検体 昨対145.9%	全農検査室扱い 復旧定植に未実施多	63.0%
多産系母豚導入率	55.7%	89.5% 1,254頭/1,400頭	100.0%	100.0% 1,400頭	全母豚多産系シフト済 ただしPRRS難患	100.0%
園芸農產品販売高	10.52億円	9.91億円 計画対85.9%	11.23億円	9.18億円 昨対92.6%	キュウリを除く全品減 各品目減2割以上	81.7%
果樹特產品販売高※	18.04億円	21.42億円 計画対119.0%	18.90億円	16.49億円 昨対77.0%	計画超キウイのみ 大幅減/栗・生椎・柑橘	87.2%
畜産品販売高	17.37億円	17.41億円 計画対102.4%	16.92億円	15.70億円 昨対90.2%	肉豚13%ショート 単価低迷 & 産仔数 (PRRS)	92.8%
産直市「愛たい菜」販売高	11.43億円	11.07億円 計画対93.2%	11.95億円	8.66億円 昨対78.2%	長期閉店による販売高減少	72.5%
販売高(園+果+畜+産直)	57.37億円	59.81億円 計画対102.4%	59.00億円	50.03億円 昨対83.6%	水害とその後の雨不足の影響による。	84.8%

※キウイフルーツと中晩柑類の販売高計上時期の見直しにより、H29年度は従来と比較して販売高が4.2億円増加しています。

人口減少・超高齢化社会に対応するため、地域のくらしを守るJA事業・JAくらしの活動を展開します。

- ・[食農教育活動] 行政と協力して毎年開催している「親子米作り体験」をはじめとして、各地区において青年農業者や青壮年部等の組織と連携し、田植え・稲刈り体験、各種野菜栽培、椎茸駒打ち体験等を行います。
- ・[健康管理活動] たいき親子健康スクールやノルディックウォーキング大会等、心と体の健康増進及び人との出会いや繋がりを広げる活動を通して地域の活性化を図ります。
- ・[共済事業] こども俱楽部活動の拡充・活性化により会員の満足度向上を図り、次世代に広くJAをアピールすることで、次世代層との繋がりの強化に努めます。

数値目標	H28年度	H29年度	H30年度			
		実績	目標	実績	要因	計画対比
食農教育活動参加者数(のべ)	1,915名	2,702名 114.9%	2,400名	2,252名	被災の影響による 開催回数の減少	93.8%
健康管理活動参加者数(のべ)	669名	659名 129.2%	520名	389名	被災の影響による 開催回数の減少	74.8%
こども俱楽部会員数(単年)	196名	171名 累計2,927名	250名	153名 累計3,080名	管内出生者約350人	61.2%